

第3回医療安全成功事例大会開催

施設を越えた成功事例の共有

2006(平成18)年11月11日、神奈川県総合医療会館(横浜市中区)にて、医療安全対策上における“成功事例”から今後の対策を考える、神奈川県看護協会主催の「第3回医療安全成功事例大会」が開催された。

「(同大会を通して)現場で何が起きているか、何ができるかを考えていきたい」という同県看護協会会長の平澤敏子氏の挨拶により開会。基調講演では「みんなで高めよう、チームのリスク感性!」と題し、林敏之氏(株式会社神鋼ヒューマンクリエイト)が壇上に立った。同氏はラグビー元日本代表キャプテン。現役時代はフォワードとして活躍、果敢で力強いプレススタイルから“壊し屋”と呼ばれ、神戸製鋼の7年連続日本一に貢献している。その経験をもとに、眼前の困難にどう立ち向かうべきかが熱く語られた。

続いて、「医療安全推進担当者ネットワーク交流会」の取り組みの実践が報告された。同交流会は、施設間安全対策交流を目的として、同県看護協会の医療安全に関する研修、医療安全推進担当者養成研修の修了者が参加し、多施設で広く活用できる医療安全対策の策定をめざした情報・意見交換を行っており、今回その活動成果が発表された。戸田由美子氏(東名厚木病院)は、ヒヤリハット・アクシデントが発生した際に看護管理者やリスクマネージャーが参照するための「医療事故等



の関係者へのインタビューガイド」, 平野佳穂氏(東芝林間病院)は、医療現場での日常業務のリスクを見積もり、対策を立て、リスクを回避するための「リスクアセスメントの手引き」, 水元明裕氏(東海大学医学部付属病院)は、院内医療安全研修の共通マニュアルである「施設内医療安全教育の手引き」について、それぞれ作成過程と内容を解説した(なお、同交流会の概要と「施設内医療安全教育の手引き」に関しては、本誌2006年12月号1002~1007ページ参照)。

その後ポスターセッション、続いて成功事例発表口演が行なわれ、各施設が発表するさまざまな成功事例に対し、参加者との間で熱心な質疑応答が行なわれた。口演の座長の1人である酒井一博氏(財団法人労働科学研究所常務理事)は、「3回続けて同大会に参加しているが、年々発表の質が高まっている」と講評、「発表をもって取り組みを終わらせず、発表以降もマネジメントシステムにのせて継続していったほしい」と語った。

●本誌編集室